

第 76 回番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成 31 年 4 月 22 日(月) 午前 10 : 00～11 : 30
2. 開催場所 COM倶楽部会議室 (箕面市船場東 2-5-47 COM3 号館 5 階)
3. 委員の出席 委員総数 6 名
- 出席委員 6 名
- 出席委員の氏名 稲垣千秋、須貝昭子、桑田政美
神垣美代香、中川弘佳、智内威雄
- 放送事業者側出席氏名 藤井 栄治 (取締役統括部長)
大平麻由美 (放送局長兼編成部担当課長)
野間 耕平 (編成課員)
4. 議 題 1) 番組 発信！じゅーだいスクランブル
2) 審議
3) その他番組に対する意見
5. 議事の概要 事務局挨拶の後、稲垣委員長が議長となり審議となる。

6. 審議内容

1) 番組

(1) 事務局より番組説明

「地域の若い人たちの声をラジオで届けたい」そんな思いから、高校生が制作する「ハイスクールプログラム」を毎週放送していますが、出演は特定の学校・特定のクラブのみのため、ラジオに出たい若者が自由に参加できる番組を企画しました。タイトルの「発信！じゅーだいスクランブル」には、戦闘機の緊急発進「重大スクランブル」と、中・高・大学生が混ぜこぜ（十代スクランブル）という二重の意味があります。今を生きる十代の若者が、切実に思うこと、伝えたいことは何なのか。番組づくりを通して、一緒に考えていければという思いで放送しています。

今回は、3月30日（土）午前11時～午後5時に、みのおキューズモールで公開生放送があり、「発信！じゅーだいスクランブル」の放送日と重なっていたため、初めて生放送に挑戦し、意見交換ではなくクイズで交流しました（通常は事前収録）。

出演者は、「ハイスクールプログラム」の高校生を中心に、大学生の番組「らくがきVOICE」「ふらっとちゃっと」のメンバーにも声をかけ、番組の垣根を越えた若者同士の交流を図りました。また、職場体験に参加した中学生や、「みのたんらじお」に出演したボーイスカウトの小学生も飛び入りして、幅広い年齢の若者たちの参加で番組を進行しました。

主な内容は、イントロクイズの応用で「中トロクイズ」（曲の途中の一部を流して曲名を当てる）を実施しました。参加者のほか、会場のお客さんやリスナーにも一緒に楽しんでいただくのが狙いでした。

雨混じりで天候に恵まれず、打合せも当日のみという困難な条件でしたが、司会の高校生が中心となって盛り上げながら、上手く進行してくれたため、まとまった番組になりました。

(2) 審議

委員長：事務局から番組説明がありました。それではさっそく番組審議をお願いします。

委員 A：当日は雨で残念でしたが、こんな風に野外ステージで放送したのだなどと写真を見て思いました。ふだんのタッキー816の番組はシニア層向けの落ち着いた雰囲気が多いですが、若い人たち、小学生の子どもたちの声もあってにぎやかで、公開放送のライブ感が伝わり、いつもと違う番組だと思いました。10代の子どもたちが何を考えどう感じているのか、というのが番組の主旨だということですが、今回は音楽の曲当てクイズが中心で、その辺りの子どもたちの声というのはちょっと少なかったと感じました。大学生も何人か入っていましたが、子どもたちの声の引き出し方は、当日に参加者を集めたこともあり、やはり難しかったようですが、一人でもその辺りの意識を持って進められれば、もう少し伝わったのではないのでしょうか。曲当てクイズは、知っている曲は分かっても、知らない曲は全く分からないので、現場の人たちとラジオを聴いている人たちの感じ方はまた違うでしょう。少しクイズが多い気もしましたが、会場の雰囲気からすると、集まった子たちに楽しんでもらうという意味では良かったのではないのでしょうか。全体的に若い人たちの頑張りが伝わり、「今欲しいものは？」の問いかけもなかなか面白かったです。

委員 B：こういう番組はなかなかないので、いいなと思いましたし、進行役のY君がととてもはっきりと聴きやすかったので良かったです。曲当てクイズは正直ついていけなくて、若い人にはいいのかもしれませんが、難しかったですが、いろんな年代の人に楽しんでもらうのがいいと思いました。中学生・高校生・大学生が同じテーマで意見を述べるというのは貴重だと思いました。高齢者のかたも、若い人の声を聴くことで元気になれるのではないかと思います。放送回数をもう少し増やしても良いのではないのでしょうか。

委員 C：若者同士のどういう意見交換があるのだろうかと思って聴いてみました。今回は公開放送で特別なプログラムになり、全部がクイズ形式だったので、若者たちの意見交換を期待していたのですが、クイズで中伸びしてしまった感じがありました。内容を分けて、議題を決めて話し合う部分があっても良かったのではないかと思います。司会の高校生がすごく進行が上手くて、言葉のメリハリもあり、早口にならずに落ち着いて話していて、受け答えもきれいで上手く、安心して聴いていられました。こういう人にどんどん活躍してほしいですね。

委員長：司会は本当に上手でしたね。高校 2 年生ということでしたが、しゃべりなど私も見習いたいと思いました。

事務局：彼は生徒会にも所属していて、人前でしゃべることに慣れています。放送部で全国大会出場の実験もあり、安心して任せられました。彼らの力があればこそその放送でしたが、こうして参加してくれているのも、これまで高校生の番組などを続けてきたことが実を結んでいると感じています。

委員 D：とてもバランスの良い番組、という印象でした。とても良く考えられて上手く作り込まれていました。10 代の価値観というのはもっともばらけて広くなると思いますが、10 代前半から後半までの価値観が上手く反映させてありました。冒頭の「今欲しいものは？」という問いかけによって、彼ら一人一人の価値観や世代感が感じられ、彼らの背景を想像する楽しみがありました。曲当てクイズは、解答者の年代に留まらず、どういう世代と交流しているのか、例えば親の世代の思い出の曲を知っていたり、そういったつながりを想像させてくれました。最後のアピールタイムは宣伝が表に出過ぎてしまった感があり、多代的な試みがほとんど感じられませんでした。全体的に、お兄さん・お姉さんを通して 10 代を感じられる番組で、それを生かしてもっと下の世代にどう接しているのかを取り上げて行けばもっと面白くなるのではないかと、思いました。その上で、下の世代と接するとき、自分の思い出を語るというよりは、自分たちが親世代になったときにどうなるかという想像力によるコメントがあれば一層 10 代に対して違ったメッセージが発信できるのではないかと、思いました。まとめとして、こうした世代を区切った番組の多くが、その世代のみの価値観に留まり閉鎖的な雰囲気を持つものが多いですが、この番組では外とのつながりを意識させることで、どの世代が聴いても楽しめる開かれた雰囲気の番組でした。

委員 E：他のみなさんの言う通り、司会の Y 君の話し方は高校生とは思えない上手さが感じられました。公開生放送ということで、あまり難しいテーマをメインにしても面白くないだろうと気楽に聴ける番組を意識されたのでしょうか、それなりに楽しめる内容で、それ以上を求めるのは酷かなと思いました。難点を言えば、司会の二人の声はマイクによく入っていたけれど、

それ以外の人の声あまり拾えてなかったのが気になりました。また、10代と言いながら10代未満・10代越えが多くて、出演者確保のためにそうなったのかとも思いますが、やはり10代で構成した方が良かったのではないのでしょうか。放送枠は、第5土曜日のスペシャル番組的に放送していると思うのですが、土曜日の13時30分～2時という時間設定は、10代がほとんど聴いていない時間帯ではないのでしょうか？せっかく期待感のある番組なので、気になりました。また4回目ということですが、過去3回はどのようなテーマがあったのでしょうか？

事務局：例えば「普通って何？」というテーマの回がありました。箕面高校の放送部員が多く参加してくれた回で、彼らがLGBTのドキュメンタリー動画を手掛けていたことから、みんなで話し合ってみようということになりました。他には「未来を見つめるきっかけとなった一番の出会いは？」「2018年を振り返る」というテーマがありました。時間帯については、第5土曜日に空き枠が出たため、そこでやってみようと昨年からは開始しました。不特定の10代を集めるのはけっこう大変で、今の若者は塾やクラブや習い事やバイトもあって、人集めには毎回苦労しています。

委員長：公開放送ということで、生放送で小学生から大学生まで混成で、難しいですよ。今後も積み重ねていけばいいのではないかと思います。興味深かったのは「今いちばん欲しい物は？」の問いかけでした。参加者の答えに驚き、若い世代の考え方を知る参考になりました。

7. 審議機関の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日

なし

8. 審議機関の答申又は意見の概要の公表

自社放送

事務所への備置

ホームページ (<http://company.minoh.net/>)

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

平成 31 年 4 月 22 日

箕面FMまちそだて株式会社 番組審議会